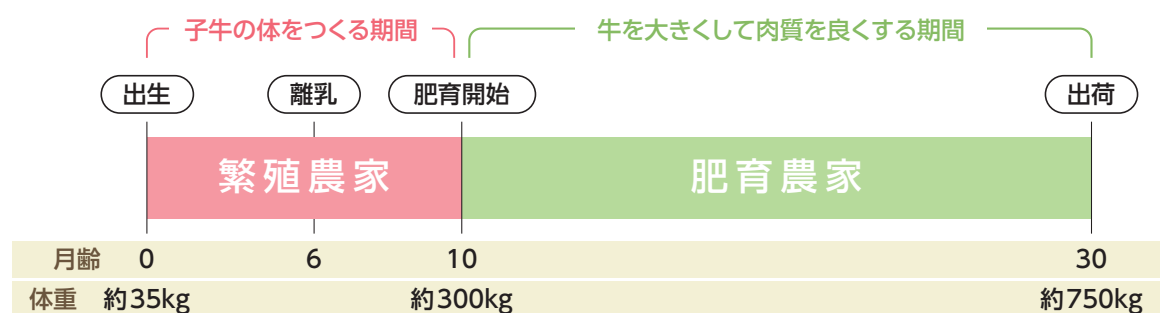


Q4

大人の牛1頭の大きさはどのくらい？

A 例えば肉専用種は、
約30か月かけて大きく育てられ、
出荷時の体重は約750kgになります。

肉専用種（肥育牛）のライフサイクル



肉用牛は出荷までの期間が長く、1頭1頭を大きく育てるため、子牛の体をつくる時期、大きくして肉質を良くする時期に分かれて2種類の農家が生産するのが一般的です。肉専用種の場合は主に、母牛とその子牛を一定期間育てる「繁殖農家」、家畜市場で子牛を買って出荷まで育てる「肥育農家」が分業しています。

肉専用種の母牛は「繁殖農家」で約280日の妊娠期間を過ごし、およそ1年に1頭、一生のうちに7～10頭の子牛を産みます。母牛が子牛を哺育する期間は5～7か月間。離乳した子牛は栄養バランスの良い飼料や草を食べて育ち、約10か月齢・約300kgになると市場でセリにかけられます。

「肥育農家」に移った子牛は、肉質を高めるための飼料を食べて大きく育ち、約30か月齢・約750kgになると出荷されます。牛の飼料の与え方は、農家の腕の見せどころ。「日本飼養標準」を指針にしながら、各農家が飼料の内容や量にもこだわって牛を生産しています。

繁殖雄牛（成熟時）の大きさ



黒毛和種
体高：約130cm
体重：約487kg



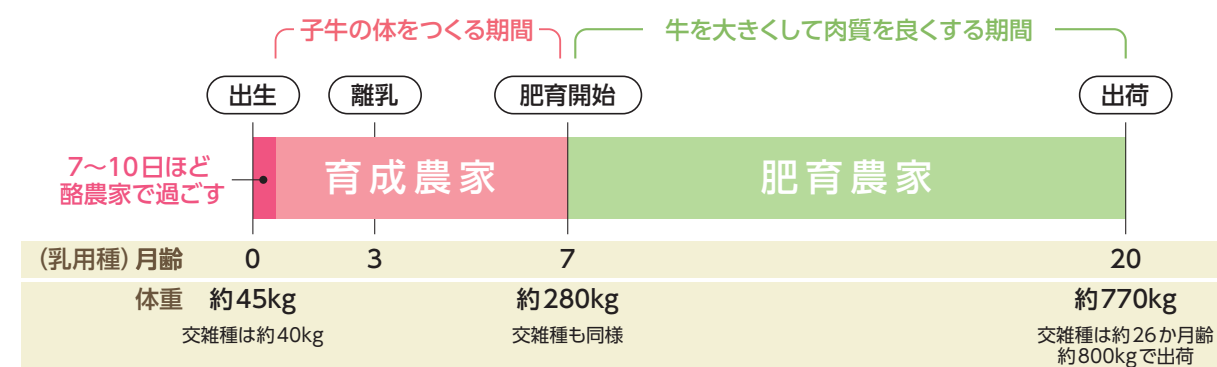
褐毛和種（熊本系）
体高：約134cm
体重：約585kg



日本短角種
体高：約133cm
体重：約585kg

出典／農林水産省「家畜改良増殖目標（令和2年3月）」
※家畜登録機関による推計値。

乳用種・交雑種（肥育牛）のライフサイクル



乳用種と交雑種は基本的に「酪農家」で生まれ、生後7～10日になると子牛を育てる「育成農家」へ移動します。乳用種と交雑種の子牛は人工哺育が一般的。脱脂粉乳などを原料とする人工乳や乾草などを食べて育ち、約7か月齢・約280kgになると市場のセリにかけられます。

「肥育農家」に移った牛は、肉専用種とほぼ同様の飼料を食べて大きく育ち、約15か月の肥育期間を経て約20～26か月齢で出荷されます。



雌牛の成長ステージ

雌牛が成熟して妊娠できる状態になるには、出生から約15か月間の飼養期間が必要です。そこからさらに約280日間の妊娠期間があるため、約24か月齢で初めて子牛を産むことができます。牛は、豚や鶏に比べて繁殖効率は大幅に劣りますが、時間をかけて生産する分、1頭あたりからとれる肉の量が多く、単価も高いことになります。

